茶隆集

乾

治の叡慮を拝面する人花の事ハ其を
聞き置ハ其響流頭に浮名を残すよ
りも其生涯の枝葉の吟遊
墨堂に生ずる月と風顔唇を対
して雪なりしを風の傳ふる事
ハ其を如何ともせん、好事に強ひ

[illegible]の数[illegible]り如[illegible]て東[illegible]より来国友白鷗を亦[illegible]
井叢[illegible]水の岩[illegible]静[illegible]久[illegible]を面白
通河[illegible]て[illegible]風匂作の懐[illegible]
師と奥[illegible]西[illegible]川[illegible]の[illegible]長[illegible]の芽を[illegible]切
[illegible]て帰京の[illegible]東[illegible]より静[illegible]

[illegible]を[illegible]て[illegible]
[illegible]の岩[illegible]再会の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]会の延を当地[illegible]
小[illegible]の設を[illegible]
[illegible]今年大[illegible]冥福を弔
更[illegible]

惟ふに道にゆかりの諸家の詠草ハいとしけくおほかり
ゆへに句もおのつから偏りてよき花撰集と
見るへし名人の詠なれ共調子おのつからいはんと
こゝろをつくすへき事なり仏の説
し因縁ありてわかる撰題を揮すへきには
居士儀をよくめてそのすかた和雅の音楽に
来迎のむかしに極楽の花をおもひ出て

引接浄刹の瑞相深くしるしてもあれ
唯願者の思顧の志をはたさむかため
よしなき書写経の所に
千世經しのみ

于時慶應丙寅とし
春むつ月

杜多不可得 不染

庭隠 永年書

小祥忌近き頃俳諧を連歌

梅通堂士

苔の戸を出るも涼しうたゝねの

京の家雲を枕にさゝやかに　奇象

芍薬は芽先の雪の揺るゝ　崑丸

夕雨の霧の初るの初夏　之禾

ゆ〻しくも咲るの芍薬　泰氏

[illegible] 井藤

辭世を[illegible]の自 東阿

[illegible]の[illegible]所筋 迦陵

下略

[illegible]向 回通歌

[illegible]桜 并ニ雜歌

梅通居士一周忌追福

只中のむかしを法會しつる 兄弟

祥月やきのふ[illegible]の窮しきり 妻俗

おもひ出や三年を過し京の空 五休

かなしきは[illegible]ちるなりけり 岡我

松風や 陸生寺の忌命日 苣丸

故に両家合せ侍るに謀を三文しぬ
菩提院碑今日

わかるゝ色如彩やわすれぬ花に月　永機

去給ふ佛うつあよ花の雲　芳宗

懐しや花の翁をきゝにつ華　芳泉

なつかしき袖の栞や花鋏りし　竹叟

立よるや桜ちる墓のあちこち　太石

梅居

附ゆかしき法の教しるや花が本　不染

花の本梅道の一周忌にゆかりある席上にきこえし千年の教の題にて令
侍るを合せしを少しも足らず令
眼のあたり錦とふ侍る業き

附ゆかしよしあるきものゝきこえ輔　為山

花ちる縁の法にあつまる桜かな　未足

咲殘し花や天晴女七猫　等哉

うらうらとてきたる敷しき櫻の花　泉壺
為よ宿ふ蓬も春の色はへ八重さくら　細雄
武の岳を吸ふて鏡をうつす小面　志幸
吸ふる雲とたちりや山ふ櫻　宇山
色食ふ人ふ山の陰ふ人の加年　梅麦
清のしくと門通ふて武の山　木和
初出や我四を見るも久しふ　西止
かうあるを西海をや多櫻　家伍

立春のうち盃ふ為る為見の花　こき雄
春うらうら休しふの色さうの武海　芙糸
為生ぬるの挿ふ春の色　為香
面のうち結ふや武の新家　江鮫

立春の接を洗ふまうふ　蓬兄
見愛結多きハ面の吟きうう　昂堂
梅つううと春の花まうの重　雪雛

[illegible]　完酌
[illegible]　[illegible]
[illegible]　未曉
[illegible]　面接
[illegible]　親和
[illegible]　学友
[illegible]　茅甫
[illegible]　未水

[illegible]　[illegible]法
[illegible]　甘菜
[illegible]　得水
[illegible]　乙雄
[illegible]　呂堅
[illegible]　子英
[illegible]　仲文
[illegible]　千兮

[illegible]ふる祇園　孤堂
[illegible]ふる　[illegible]の山　雑堂
一夢の[illegible]　[illegible]の中　海自
人の[illegible]　[illegible]　桜　始園
只直[illegible]　木の[illegible]　玄和
[illegible]　[illegible]　大瓦
[illegible]　[illegible]　自夕
宿の[illegible]　[illegible]　山自

[illegible]　[illegible]　指雨
家[illegible]　[illegible]　石丈
人の[illegible]　[illegible]　柳塢
[illegible]　[illegible]　春長
[illegible]　[illegible]　巴山
[illegible]　[illegible]　庫海
都[illegible]　[illegible]　永年

[illegible] 素女猫の [illegible] 糸接 [illegible] 糊磯

多[illegible]尺 [illegible] 桜 [illegible] 篠

[illegible] 四隅 [illegible] 糸 [illegible] 竟

[illegible] 糸 [illegible] 糸 [illegible] 素材

黒焼の [illegible] 素 [illegible] 交 [illegible]

[illegible] 糸 [illegible] 雄

[illegible] 白

[illegible] 糸 [illegible] 甘志

[illegible] 糸 [illegible] 糸合

千金の [illegible] 自 [illegible] 錦女

[illegible] 八 [illegible] 玉[illegible]

[illegible] 糸 [illegible] 桂[illegible]

[illegible] 人 [illegible] 由地

[illegible] 糸 [illegible] 素南

[illegible] 糸 [illegible] 秋[illegible]

[illegible] 宣子
[illegible] 香悅
[illegible] 乘得
[illegible] 慎迦女
[illegible] 迦自女
[illegible] 爲至
[illegible] 五雀

[illegible] 東枝
[illegible] 文昇
[illegible] 壽子
[illegible] 正修
[illegible] 然平
[illegible] 榮少

[illegible] 東坡
[illegible] 青柳
[illegible] 英哲

唐医哲のわらはやまひの種 思樂
息つめたきもの重服 石臭
入れの籠ゆゑ 茶見連 鶴女
猫等に 除のまれハ遠きうち やちよ

茶の花や人ちらつきて門 所望
白和尚如自きうち 咲きうち 菩薩
唐庵や夕べかもとの [illegible] 瓦貢
山水を見うる庵や遠きうち 男末
江の魚鮮き春四角のふ 蘆雪
春 ほうくんの花 茶の花 仲涼
やうくうく [illegible] 遠樣 左女
咲却の陰よりの [illegible] 之永

[illegible] 嘉民

[illegible]

[illegible] 高泉

雜部

[illegible] 多保

[illegible] 仙也

[illegible] 儀冬

[illegible] 山[illegible]

植溜や雪葉を[illegible]一[illegible]ま　徑山

[illegible]人住む柳、[illegible]　林陳

芒住[illegible]の[illegible]賀春を自見ル　卜早

蓬葉や[illegible]雪の陣[illegible]　波路

見[illegible]ま[illegible]数の梅　孫市

雪や[illegible]の[illegible]　教行

[illegible]の[illegible]　柳賀

[illegible]の山　茶懐

伏遠き柳より自の名殘しるる　海柳
心ならしき雲もうしろ秋の山　南嶽
怪蔵を面を考へる山は数　工雄
手拭用の様よしの葉〳〵　糠代
青月原や気あり的の部ころ　蓼舟
喫煙八ちゝ取を梅の操しうの　村蓼
生涯考のる和よ考へ自ひ代　雪雷
嘗のこ雪雲こうを初ゆしの丸　鈴鹿

ゆうこゝハ稔き初ゆ水車　山和
蔦の葉よ鶏もこゝ初や麦の秋　雪年
ゆこ性面士の蔵を爾色こう　梅二
の自よ蔵うきこの屋や屋一り　乙五
石自よおきこを低き蔵山代　東岡
四五枝の畑行こ弁や麦こう　梅止
心こゝの色荷造りこのほし蔦麦　雑也
稔ひ自よ咲こ自の像や麦の雪　方明

こゝろのうちの海やうち光柳　美好
門松の琴こゝろ高く二日ゝ　大然
ちりこぼれ菜しをちり松殼垣　立我
春動く雪ふや絹の如くより　如雨
稽舞や妻まつの歩行ふ室　逸庵
金屏に手書の新や侯爵き　柳光
妻白や降こぶ星の思ひこめ　晨侯
衣文美や大雪ふる高一教　鈴く

時々こゝ名自ちきし海の上　蓮堀
岩陰や春水かゝるかの鶴　尾正
自代の琴こゝ琴世ねしうの　霞心

白鷗洞宗の法にたりて我〻の麥庭叟ハ
菊水をたもとて此の頃に同志の誰〻の名を
推敲せられてとし給ひ梓にて故園に
帰る押合し目白の相のゆゑに我〻の戯
むれしも日々年〻のありき人考のまゝ
此人法の縁高に帰りて此集の紀に添り
加りさしる中生涯の志恨をなくし去年
其小祥忌も来むとて筆をとりし風の
たよりに聞えしのそ〻に業をを
勝るゝる異菊に備へたる舟

此花のさき東風の身にしむ花のある也　来　南浯

年手向小祥忌

一炷の中に懐のまゝありけるさぬらす　董子

梅通居士一周忌手向

初ころもの今様に寒し撫さする　歩舎

わくらはその面影やむ紅葉　清芽

大江戸白鷗会のはしに此の素琴
翁の東明の寂莫にも袖をぬらし侍る

法筵の鐘も借らむ花のかり　肯岩

後まさハ初しぐれの塚のつめたし　蕉池

手向花やせめてその姿し木蓮花　乃也

袖ぬらし其の翁のかりや花の面　鬼丈

我も その流れを汲む人丸の事 及ぶ
ちりしきて 花ちるまでまつ思ふ心 行基
散きたし 却て実説の方数少 素盞
木魚つく音も 寂やぶのうち 猿仙
ちりたのまれぬ きたるまで 撫こうめ 美杜
寂たるうつ 行くまでふやむる年 玉瓶
むのうちや 花の白ひか 牡丹 考嵐

今 禁こそ見しる人 有 撫 公成
かなる 雪 この人 ちりしき 撫 佐同
見て 一日 ちる 後の 流や 春の 交海
行雲 ちる 雪 かる 撫 うな 拾山
山門 見 海 ものゆふ 色 俊藻
山 日 白 ちり 京 ちる 路少
ゆ 月 しる 秋の 月 やむる 上 未楊
海 ちる 海 月 雪 月 孤柳

活おいたちの年や更衣　一涛
二日月や雲荷ちらふ蓮の葉　双魚
ちる花や俤わすれぬ面影　照骨
蓮葉や幽彩よぶき松の志ん　喜沙
出ぶくも眼の幸や春の梅　芙文
舟ちゑし物語きくも籔のきれ　升悪
水仙ハ踏のちらすめのもと　狐悟
ちるも雲ニ扇のもしを物見ぶく　狐水

ゆるるの梅や初日の角　磨角
二日月の影をのもるり懐草　蕙口
咲このこと山の書ふ義象ぶく　自長
ちるもこのこ初ふ墨や帰る鶏　祭恵
蕎ちるも書初秋ちあるよるり　面繁
草物や荷物の糸ハ雪踏の爭　九郎

懐し孫かのこと福しこ
夢をのもる手拭ちふ社自　鶏高

蓬莱に坐るに去年の供への花　頌水

ゑくほに彩田して梅の花　尾張 素亭

春日や年行かきたあらし山　蘋山

春の帯ぬる山桜嬉しや昨忘の鐘　祥鳥

手向

物忘れぬおもよ出は嘆きかな　摂津 衛水

花の香も四方に広がる法会かな　古人 知風

ちる花の中にかやくる月日かな　杜綾

野に去し葉えよ似花や杜若　素盛

ちんくくちるつ昔や堂木炭　以成

嗅捨の萩やみまきる花の際　五藤

月清や又める雲は鏡山　稲雲

此友は見しん去山の桜かな　也行

かへりゆく羽翔の猪や萩の中　眉年

夢さめし園のよりや東結月　葉楳

湖の月る雲も去りあり蛍の光　舟左
きやくくと稲の戦ぎやあるまま　松甫
鞆山の水も動きくるる秋　雅堂
ちる葉の中や松の葉ゆふるる　宇天
時雨れや鶏も鶏の為に泣く　素丈
村雲やちるまきの葉の葉　静江女
ちらう雲くるる自然の柳ぶ　峯一
妙見にかの八ちうきの雪　山角

ちりぬ雲や山の霧しくる夕の葉　景左
裾捌や去年古の傾く蓋の上　懐元

茶言人八和生為ゆうの月　伊丹　曲章
夕食八門西へきくるるる　吉雄
新霧に白八ふ古や梅の実　梅信
竹に九ちきこの孫ある畳る　香春　渡茶
由魚の去ゝや鏡の影しき　世篠

大枝の雪を先向に咲梅ゝの色　似葉
霜生枯葉の色は咲ぬ枯ぬ　寸松

梅図長尺巻

見る度ごとの思ひ出を一めぐり　梅窓
表の雪や山路まつの向ふ　野雪

幹よりも枝に咲ける梅ゝの　士前

出られぬ牡丹の蕾は　墨岬
咲て出てはくれぬ花盛　我竟
まゝ出やくるとうとうけ　候雨
ちる中を出て見る梅ゝの　ふ迂
ゆるり咲いたと金糸の長　ふ樵
俳諧寄る新年の春梅　士芳
野ゝ出る雪ゝ咲ぬ　柳牧
のゝ雪ゝ咲ぬ梅ゝ　羽衣

新古今和歌集の時代の作者たち　篇番

豆腐屋を宮芋屋の名　素候

梅の実る栖狩の先や五月雨　秋里

雲新や無い向ふの岸よりかける　立志

雪本さうら深しよるや妻の恋　寡白

寒ふかりしを知るも哀れ　二路

きのふ家の梅よ梅しき春の　指石

雨狩よ笠ハかるる狩あり　芝雅

山笠や嚴垣使ふ笠の水　星恢

降よ降雲雀や降もうら表　柿谷

降うしろ笠ハうしろゆる柳いろ　里江

夏至来よ山松茅よ雲大根　依象

菜の香や菜の花の花ひうら深し　一清

先師梅通の句少釋点浪稿

清うしろ孔雀や法師の自うし　如安　晴江

[illegible]　紹翠

爽昔る春雨　帝云

芳しや梅の[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　山中　白信

梅の水は[illegible]の[illegible]　[illegible]　甫立

[illegible]つるの[illegible]　[illegible]　李舜

水鼓を[illegible]　[illegible]　成誉

[illegible]　紹平

[illegible]　林故

[illegible]　[illegible]庵

[illegible]　[illegible]朗

[illegible]　[illegible]

[illegible]　山中　芳流

[illegible]　特来　碧桐

[illegible]　[illegible]　[illegible]　四

門さしてや水八月雪降る夢の色　九重

紅梅や枝垂桜の夕陽深　松窓

思ふ人を袖さしつる清水かな　松亭

垂疎さや時雨降る松の文　十種

行秋のうらうら寒き袖うつり　蕉白

梅さしや枕屏風の建こもる　蛇洲

四季々々さしの集めの春　この庵

新法師も聖さしつる宿の角　太夏

桂壺

紙型

桜中

桂の根さらつらつらの四種かな

雪の中や咲る蕨寒し　雪兮

春さしもこもる三ツ四ツ自ら梅　涼瓜

咲や寒さ春さしつる雲の石　梅村

春雪の咲ものうらうら筏さし　雪鶏

春さしもぬるぬるぬる極や菊の色　圭吏

行燈の掃除も済て秋の名残　トヤマ 梨螢

七夕ハ橋しるへ行わしけり伸の噂　トミ 素隼

さし汐の上を流るゝ素麺哉　其路

手向

咲までの命を契る花の陰　イヨヽ 寛山

雲まで尋ねよ白梅の香佛かな　花尾

徒の命まで惜しむ花結の香　霞条

世まで通る月ハや梅の名残哉　霞峯

蒲萄の花咲けや五月雨　嵩江

田や畑へ次々まてよし傳ふ水　也英

撫てる姿の行ふある春雨の跡　英粉

水若ゝる暮しさゝやの上の噂多き　素英

二つ三つ飛石も行ゝ清水かな　級霞

箱の中や流れてした福寿草　如泉

おりしも気春の人や行くまゝ粥　越后 耕史

ちる花は水のながれ向ふ岸　永雄
雲色も青田まかるゆふぐれ　芳壺
七夕は雲よりぬきぬ物ゝ音　雪後
海ゝの雲は峯時雨ふる花の東ゝ　蓮生
行ちるもあるゝ白のゝ山や松の間　三千代
水おのゝのゝ向ふ藤の花　古業
のゝゝゝ押ふ水や夢の跡　琴丸
蛍和歌浦の月の墨絵ゝ隠れ行ふ　雅仲

此ちる花は自の勢ふ　市猫
まゝゝゝ井の鶯蛍ゝ梅の花　習鶴
咲ゝゝゝ山ゝ法ふ猫ゝ　南志

山門ゝ雲は鄙ゝゝゝ　筑前　市猫
行ゝゝ峯ゝ雲の息ゝの梅の花　本條　也同
水のゝゝゝ帝花猫の蚤　林雅
蛍ゝ藪猫ゝ猫ゝ猫ゝ　秋江

[illegible] 何岸や畑や梅の花　雪村

稲刈て穂田の野辺出[illegible]　九芸　三巴

[illegible]の雪芦[illegible]　東林

稲雷や夕暮[illegible]　舟虎

[illegible]出て底先や初[illegible]　糸石

[illegible]生の晩[illegible]　素童

[illegible]山水寒[illegible]　梅人

[illegible]

[illegible]　陸奥　清民

[illegible]八稲[illegible]　一止

田の泥底留[illegible]　卯峰

伸[illegible]　芳鳩

[illegible]　稲意　西美

一[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　金陵　[illegible]

雲の秋[illegible]　南彩　[illegible]

[illegible]　四幅　如水

[illegible]　出羽　素山

[illegible]　江春

[illegible]　雪堂

[illegible]　重賢

追悼文

憂[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
見ぬ京なつかしう思ひ出でられ
しかの戦ひの神井の杖をやつれる
よりの[illegible]の菅笠をうつす
[illegible]の海の方の絵を
[illegible]の七尾の月磯波の音
[illegible]の情の細やかなる
[illegible]

[illegible]
出羽の室潟義家の小舟に
十[illegible]の前の[illegible]の市の
垢を落さぬ学生の絵を解しも
[illegible]今[illegible]思ひ
[illegible]京の麓より[illegible]七年
東武の[illegible]の義の行[illegible]
角を孫を[illegible]に

蘇をめぐらし芭蕉を道にはしらしむ今の世にも
都の人と相集りて興によりめいめいの
句一枚なしのへりけしをきらきぬ名勝
なれそめる文の談笑を動しりて立出る
ありふしつゝ出る事無為をこゝを
秋の自然励まされたるの句を造一世の
わのれとハなりよたゆ仍のを記しらるハ
此地の招きまねしを発詠の奨勧見ま

ほしとおもひハ知らしも水に数しかぞへ難ハよ
しとは詠ハ慕莚の境をさながら涼しき
國よりの仍くりたまハぬ志やしきや至
小祥忌に依りて家めぐりたる哀念の情を
慕ふよ誹ハ仍あらの流の徳を擬ん
ものを忍ふを仍まし憂慈をわすらるゝ
なし仍て茲程同好の人々しくたり一句
一葉を吟して撒菜結苞の

蓮叢六字傳奴

元治二乙丑弥生十吉

奇彩

茶隆集

坤

果東物語古今詳悉
雲之角千言子角

義もなくて佛もなの郭もなく　奇怪
古巣もなきなる香枕面時　この星
時空の間なる秋も淋しき　妻鹿
棚ものなる元自角いうなる　大臣

[illegible]十三歌　業載
[illegible]の[illegible]　東陽
[illegible]　江侯
[illegible]の[illegible]　[illegible]川　其琴
[illegible]一寸八[illegible]　西雄
[illegible]の[illegible]　里大
[illegible]の[illegible]　法名　翁史
[illegible]　大瓦

[illegible]の月　五休
[illegible]の[illegible]　東岡
[illegible]の[illegible]　立我
[illegible]の[illegible]　英好
[illegible]　思樂
[illegible]　春柯
[illegible]の[illegible]　[illegible]雄
[illegible]の[illegible]　泰民

[illegible] 茨喜
[illegible] 雪離
[illegible] 二来
[illegible] 柳光
[illegible] 恵庫
[illegible] 鶯女
[illegible] 林涼
[illegible] 国山

[illegible] 見外
[illegible] 八十女
[illegible] 玉城
[illegible] 尾貢
[illegible] 柳笑
[illegible] 鶯鳴
[illegible] 谷山
[illegible] 峯

雪や昨日先よりきゆる梅の雪　松尾芭蕉

きゝ耳や弾き初めて蘇　法山

色遠の咲や思ひ寒し　土芳

白八山よりかすみ八岩のゆゝ色ゆゝ　徐蓮

松の根ハ雨の色ゆゝ　雨九

新しき年の来るものハ来る年の夷　己有

[illegible] 蕉園　佐渡

[illegible] 茅堂

[illegible] 冬刪

遠悼

[illegible] 耕雨　伊勢外物

[illegible] 青

[illegible] 隆定

[illegible] 鈴浦

[illegible] 麦豊

[illegible] 八壽丸

[illegible] 昌末

[illegible] 梅井

[illegible] 冥英　常名

[illegible] 桐一葉

[illegible] 東雨　スヽ川

樓に行きて古くなれるを白髮　クシケタ　梅門

菊の露や猫の盥に流るる　柏文

行年も古くなりぬる鶴の歩み　トシヨリ　帳舟

古くなりて減るは梅の匂ひ　シロコ　梅笠

梅や行年の海を行く　雪南

彼よりも梅一山藪や古の祭　杉坂　安昌

古のうしろや紅葉　伏堂

夕影よ黄ふ穂先や柱尾屯　杉う

蕨ありよ柱根ハのうしろ　蕨の子　春鳥

筆ふるひ野を出る春の風　こうこ

古くよや先哲の古のうち苔しめ　柱象

行く門や白ハ野よのふるさと　穂水

古くの名所つくしの名の名畫　三伝　畫う

見めくよ知らぬ古のあや　秋の雲　蓬宇

新やの時白鷺しらめるうら　春芙

挿おろす娘の由し若菜　完伍

梅通居士の追善を営まるゝ日錦舎大人におくる

菊の香を江戸よりつゝしむ手向　近江　杜多

惟しのぶ戦ちる菊の自在の花　餝堂

宮うつゝ古草ゝゝも又一千　平臺

きぬ良山枝ゆゝ好る柳しる　登露

まの咲春香州繁　柴牛

猿若丸やしく待ゆのしや花の門　駿河　青溪

咲わすれ我をかつしや若雛の声　杉栖

人音やおのゝ行まし丸都ぬらる　甘水

藪木の時雨しきまで花雪　椙堂

菜八年しぬ拙丸行く錦ゝさき　雀巻

数ならす見送る八郎ゝの雲雀の　甲安　春々

植込の座敷自慢や太鼓の夢　柏木

白の鞠よハウキの如き月の面　こう鶴

面てこの夢ハ修羅ともこそ四枝咲　林良

月の白ちぬよりもるる藝もすし　多賀

面の夢や　黒ハ海苔の物の色　相撲　ゆき雄

下簾や人ハかくれも高く見ず　阜雄

和の色ちぬ夢ハ夏や多量　以静

たちよりて傾く麦も伸びうる茶の陰　武蔵　国山

蛍火の古墳ちうる姿の如く伝の柳　寒潮

かたしの墓ちの墓ちつしの柳の色　丁英

うちの水や蛙の古墳ちの蛙の寒　貞富

啄木鳥や古墳ちうる柏の末　武正

森の面のたのくめつくしや鄙ちの色　梅川　芝夢

月ちの寒くりのよ面ハ白燈ちの　大笠

[illegible]

十月中四八羊種の[illegible]　桂文人

引の[illegible]　石崎　[illegible]

[illegible]人八[illegible]　安平　[illegible]女

[illegible]人の[illegible]中の[illegible]　川城　玉巣

[illegible]秋中[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]中[illegible]　酒風　[illegible]

[illegible]中[illegible]　中[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　上素　[illegible]平

[illegible]中の[illegible]　[illegible]生

[illegible]の[illegible]　[illegible]白

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　水信　[illegible]

折る木より蝶生て花や枝の塚　伊勢津　半洲

咲ま免し扇に吾や風まち　イカホ　一朝

気にかけし咲は桜のはしなれや暮　下毛　其翼

居酒屋の柿追ひ来柳さ子のるに　宇都宮　滅文

埜梅笑中くのうち出てさ菊　栃木　巣飲

咲まさ散りや桜よ山の水　箕精

来て見れば八人の中ある桜かな　安房　呑水

折ゑち綴る春の宵猫の毛　茶村

鶯の声の若や雲の消る原　棲山

老にしさや秋月と追し若の春　哺く

出代よはふや菜の花来ま結ふ　上総　寄一

味の子やきのふは何も知らず寒　一滴

帯しき咲くしくのこ無て出処ふ　鳥重

行春をしたしのうらの苔の衣　陣雲

春ふかうの元方や梅ちりて愛　素文

人の春る郭公よりあとの恨　下総　春年

六月や秋はしくの山ずし　自杵

新蕎や蕎麦ちりの市の琴　素樂

戸八月寺も寺も敷蕎麦の花　汎聚

蕎のたまつる春るや北ずし　う候

蕎麦掛や又ふ年しき京よりの　旭富

昨よりの僕ふ多ふ山さくら　常陸　若明

白妙さくらかるたのう山桜　近江　赤甫

蕎麦屋や琴も妙も二日　吉野春

人の年ふ春ふ霞しめる自見ぬ　蕪二

砂吉しの水ふ山ぶしや物自叔　芳渓

白数行る隙も古く苔の色　色分
かくるまも庭の木陰や雫計　乙雄
酒提て門を叩の初見ぶり　乙也

新田や玉垣の内なる榊　蓼虎　蓼庵
古屋敷の古くさや名の門　石富
芋掘の家の新や芋ぶけ　瓦全
石菖のうゝ結しる暮のつめ　巨笠

山里ハ月見ぬ先ぬ蕎の事　清涼

梅の香ふ手紙の紙に財布する　孟深　子英
紫陽花や家の雲ハ分れめ　杜臺
ゆふ立や赤瓦山の土砂臭　探変
寒くゝ や敷ハ古るの宙の陣　珂吸
孟浩の古くゝ古くゝ寒ぶし　白國
新物ふ寄の真や古く古く　秋坪

石菖やわきて八朔中ぬ秋の露　蘇道

捨ころハかりきりもなし天津雁　信濃　蒿古

引しまり鮮青ゆきる時分かな　来啖

夕されや小萩にかゝりし秋の雨　仙翊

鶯や小枝をつたふ羽の音り　玄蒙

香一羽雪を横きるや夜嵐　孤松

まれしくし霧の夜寒杉林　松濤

所町八日和下駄ありし露時雨　友松

志ら露や足すみ屋ま文字なる　盛自

何所の鴫立ていのち浮の雨　水青

湖山の稽やまだくよきさみ隠し　省我

音きゝぬ鶯もがり木曽の秋　渭川

百合の花一日八椀にわすれけり　甘山

鵜ぎ船をちらす魚やまきの秋　丹沙

草に散る露や蛍の数らしき　龍洲

雲霧よりたつるこの夕べ　ノ左

紅葉の赤まり散る柳　俊西

紅葉ちるぬハかし妻の竹　雪齋

咲ての色こまるこよ妻こる藤　大和　俊我

新まる波ハ乃色　初このこと　松壽

まこれのうちよさ人ひろ秋の雲　伊内　墨劍

春櫻色ふ雲ふ雲　咲こさ生　和泉　松子

岸　窓のうしろ　ふるる　蔭ふ　此水

桐　紅葉ふ　ちるこ　白の路　伊勢　岩広

鼻先人　自のさ　西　路中　こ　江戸

陸　こ　白さ人　妻の　方　こる　播磨　鳴こ

まつのうち明暮ニ見し梅の花　梅玉

鶴亀屋の看板あのしらぬ紅白　梅六

川縁や水ま濱ゝの赤ふ紅白　寅交

出代や笠まてるの名も小一内　古谷

早蕨や翁ての又長らしの　北梅

このあふむかうむらまち勢八や錦繍乱　梅磨

君やらあくゑくあそゝ柳との花　何之女

捨たら八まくさ茶の色ぬ何らしらむ　梅路

菜さくや麦の穂茶ら人の行　一瓢

ゑそふやら花らしき影や花ゝゑ　清風

ねぶりは何らしらぬ菜の花や神子の宮　梅女

春しくゝも面影を墨し百ゝて　備前 涼呼

梅しらぬ小春あら野ら埃ゝ　子葦

雲の上も静中能寂の四方口　一草

[illegible] 酒豆汁　信反　相富
豆腐屋の前にて　白糸
[illegible]　聽面
[illegible]　杉東
[illegible]　春水
[illegible]　繻然
[illegible]　仙峯
[illegible]　雪山

[illegible]　青義
地[illegible]の一安堅[illegible]　秋[illegible]　安藝　陳年
[illegible]自中　年[illegible]　桂玉
[illegible]石の[illegible]　春村
[illegible]樓[illegible]　[illegible]自
[illegible]　男[illegible]　[illegible]女
[illegible]　[illegible]山[illegible]　蓮[illegible]

[illegible] 紀伊 靈峯

[illegible] 泰丘

[illegible] 伊勢 菊池

[illegible] 介石

[illegible] 信濃 春色

一本

[illegible] 等足

[illegible] 姫路

[illegible] 董坡

[illegible] 玉田

[illegible] 友雄

[illegible] 素文

[illegible] 帆堂

海棠や夕しの雨遠き古寺　應可

ちるこのの池に蓋のり艸の蘇　松文

松たての高く奴枝のきや小ぶ樫　宰雀

以来とも我よの先や動く考　宰蕉

稽素や高し先生墓根の石　儀蝶

面つゝみ西水も出来て飛蛍　其榜

今蔵る見ぬ夢ゝ桐一葉　紋口

蕎麦ハ咲きぬや蕎子茶　李麦

墨きの中蕎の遠き水ゝ　李雲

鶏ゝの仁の動ゝ樟や宵の風　魯遠

白晴の毛粉ふるゝ　桐の花　左一

茶の秋の咲て来ゝ枕元　蕉村

動ゝ主所ゝ命ゝ田の稲　思風

杖ゝまゝ藤ハ老ゝ初ゝ遠　後岐　本長

文ゝ色人時夢や寄る社角　柏石

水無月や相の山まで山ざくら　半宮
江の島や墨ぬり塗る夏の海　児笑
多仙や寄り合ひ寄る夏の月　壽水
遠山ざくら　遠山ざくら　一意
蝶掛て先ずうまうまと自立ち　未拭
濃い春よりあり数揚の数多　柱蓑
初鰹の値段を聞くに驚く　呂我

蔦の水や青田の中を来る夏　甘鶏
掛ずり先ずまるやかな出来　菊園女
踏石の苔も蓮葉の揚末　宰遠
蛍
蛍籠の数多出来る恒　蕭水
七夕や雨ふらぬ雲の多き　雪尾
山蛍も籠より蛍横　市驚
信濃の国に年の数ゆかるる　荷白

[illegible]　柳絲

[illegible]　紫陽　自人

[illegible]　梅史

[illegible]　豐安　[illegible]の雅

[illegible]　百元

[illegible]　然居

[illegible]　橘史

[illegible]の[illegible]　橘史

[illegible]　紫陽　豐山

[illegible]　石友

[illegible]　[illegible]

[illegible]　肥前　去嘯　止得

[illegible]　　（丁字文）　鹿毛

[illegible]　　紫紅

[illegible]　　稼ヶ

[illegible]　　里塚

[illegible]　　梅海

[illegible]　　秋水

[illegible]　　甘幸

[illegible]　　甘鯉

[illegible]　　有造

[illegible]　　綱川

[illegible]　　石牡

[illegible]　　（アリタ）山面

[illegible]　　（紅白）寸武

[illegible]　　（丹波）鑒水

海辺や夕雲ながす雲ちらす雨　角蟬

川霧や時々流し船の竜　南涯

枯ぬまる水を面に帰かなる　横雲

春雨の歩行もゆる柳かな　丈夜　東柳

降ちらす白和つるや春の海　播州

白糸を結ぶまうしや雪の心　警八

ちらすまるふるもしら雪の梅　南葉

海草　干ぬ背ぬ岩の上　清義

葉ぬの蝦ハ何の骨ぞ知ぬ　但馬　春年

背ナのるる知らぬ雑炭ぬ　二好

藻ぬ出や夕ぬる影ぬ寒野　秋岩

夕雲ぬ神ぬ自や藤ぬ出　出雲　対眉

ちらすのうと人ぬ見る柳かな　鷺川

[illegible] 麻衣　尭水
[illegible] 不紹
[illegible] 宜堂
人[illegible]八歳ヒ[illegible] 瑞枝
[illegible]樹を[illegible] 衡堂
[illegible] 雅石
柳の[illegible]池の[illegible] 学仙
田[illegible]秋の雀[illegible] 時春

[illegible]桜 [illegible] 蛍山
[illegible]帆の[illegible] 曲川
[illegible] 良之
[illegible]峰 田保 謝葉
[illegible] 木甫
[illegible]の山 立器
[illegible] 素布

宗因七十四年時の百韻に詠る発句

一輪も咲るは筒の榛の木　桐林

咲つゝも秋の八日や雨の日雑　松臥

むさゝびの赤き実おのひとり　佳節

野分後の紅葉ちりぬ桑の木　桑木

梅通翁十七年忌

紅葉ちるつゝしの花の百ひら　高後院　貼山

散人　尾張　西后

咲つゝ花の因利の咲るや唐の国

物好の家ハ庭さゝ梅の木、雲地

蘭桐や鮮の変はり方至、雪叢

むさゝびや雲の行るの奔一、弟渠

[illegible]川の郡[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]年の昔より御墨うるる　伊勢　北華

梅の[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]下結　伊波　[illegible]雷

[illegible]　[illegible]　[illegible]　ハカタ　[illegible]

[illegible]甲[illegible]　[illegible]　[illegible]　奥　多代女

我[illegible]　[illegible]　[illegible]　出羽　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　江戸　梅笠

梅[illegible]　[illegible]　[illegible]　筆氏　春江

我[illegible]　[illegible]　[illegible]　太鵬

[illegible]　[illegible]　[illegible]　古江

[illegible]　[illegible]　[illegible]　彩雲

[illegible]　[illegible]　[illegible]　卓雨

遠加冷人

[illegible]　[illegible]　[illegible]　江戸　白水

[illegible]　[illegible]　[illegible]　通子

[illegible]　[illegible]　[illegible]　梅[illegible]

跋

洛之梅通翁以詩諧鳴于一世從遊之徒頗夥而白鷗舍奇泉亦嘗親炙乎翁久矣最得其蘊奥而東歸焉去歳聞翁赴告慨歎不措須謀之朋友諸士輯追悼歌詞爲二

卷名曰花降集蓋亦供翁追薦述
眷戀不能忘之情其志可謂厚矣
大抵世之稱誹家者概不過鼓張
技藝誇示世俗而已奇泉則異乎
此能叙追摹之情其親切懇摯遠
出於世士之上抑通翁之導人有
法奇泉亦能奉其教者此集之所
以不日而成也予甚嘉奬其志之
厚敢述詹言以寓羨仰之意云爾
慶應二年歲在丙寅夏六月中澣

東陽村田子免撰并書